

平成28年度 村上市岩船郡生活科部会 活動報告

部長 平山 陽子

1 研究主題

子どもたちが楽しんで活動する生活科授業の工夫

2 研究の概要

4月28日(木) 第1回生活科部会 部長選出 計画立案

8月9日(火) 第2回生活科部会 理科センター研修会への参加

「うごくおもちゃをつくろう」 神林小 渡邊 亮夫教諭

8月19日(金) 第3回生活科部会 指導案検討会

11月16日(水) 第4回生活科部会 授業研究会

「あそびにいこうよ」 保内小 宮地 聡子教諭



3 研究の実際

(1) 研修1 第2回生活科部会 理科センター研修会

①研修内容

身近にある物を使って、遊びに使うものを工夫して作る「うごくおもちゃをつくろう」の材作りについて研修した。ポイントは、「おもちゃの基本形を示し、工夫や改良、発展できる余地を残す」「材料を豊富に用意する」「作ることと遊ぶことを一体化する」などが提案された。

②実習

参加者全員でうごくおもちゃを制作した。実際に作ったり工夫をしたりすることで、児童が失敗しやすい部分も体感でき、教材研究を深めることができた。

(2) 研修2 第4回生活科部会 授業研究会

1回目自分たちで作ったおもちゃで遊んだ経験をふまえ、2回目園児を招待して遊んでもらうための計画・準備を行った。前時までの画像やよかったよカード、映像などを見て、本時で行う活動の見通しをもたせたり、それぞれのグループの準備が足りない点に気付かせたりした。さらに、活動の時間を十分確保したことで、互いの意見にしっかり耳を傾けながら納得いくまで話し合ったグループ、目的意識をしっかりとって活動しながら修正を加えたグループなど、友だちとかかわりながら夢中になって活動する児童の姿を見ることができた。

<協議会から>

○ 園児に楽しんでもらいたい、もっとよくしたいという目的がはっきりし、児童一人一人が強い思いをもって活動していた。魚グループは、点数をつけるかどうかについて最後まで話し合いを続け、どの子も納得できるルールにたどりついた。話し合いや活動の意図が明確だと、1年生でも十分に話し合っ議論を深めることが可能だという姿だった。

○ 教師が振り返りカードや写真、ビデオなどを用意したことで、児童は前時までの課題や願いをすぐに思い出し、本時の活動に入ることができた。また、活動を続けることで新たな問題点に気づくグループもあった。どのグループに対しても、教師は前時までの見取りをしっかりとち、何よりも教師が児童の思いを肯定的に受け止め、言葉がけをしたり支援したりしたことが児童の主体的な学びにつながっていた。

4 成果と課題

○ 今年度は、体験型の研修と公開授業の2つができて充実したものになった。それぞれの研修で学んだことを日々の授業に生かしていきたい。

○ 指導案検討会では、意見交換や情報交換などが行われ、大変参考になった。さらに、保内小学校の研究授業後は、コア・マトリックスにまとめるグループ協議で協議会に参加させていただき、大変勉強になった。